

# 三陸沿岸の小河川に生息する淡水魚類相



岩手県立大学総合政策学部 鈴木正貴

## 1. はじめに

ジオパークには、地質遺産だけでなく、考古学的・文化的、さらには生態学的価値のあるサイトも含まれている。

三陸ジオパーク

➡ パーク内に生息・生育する動植物に関する知見が必要。

目的

「三陸ジオパーク」に資する動植物の知見の一つとして、岩手県太平洋沿岸部に生息する淡水魚類相の現況を把握する。

## 2. 調査方法

調査地点の選定	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩手県沿岸において、海域へ注ぐ小河川・農業水路を対象に、39地点を選定した(図1)。</li> <li>選定条件は、1) 内水面漁業協同組合の管轄する漁業権漁場の指定区域ではないこと、2) 流水が存在し、海水の侵入が少ないと思われる下流域であること、3) 原則として、調査地点から海域までの流程に、魚類の移動を阻害する構造物がないことの3つである。</li> <li>大槌町の一部調査地点は、聞き取りと目視調査のみとした。</li> </ul>
調査時期	<ul style="list-style-type: none"> <li>2012年8月14、17、24、27、31日</li> <li>2013年8月13、14、18、19日</li> <li>2013年9月20、23、24日</li> </ul>
環境等調査	各調査地点において、以下の6つの項目を調査した。すなわち、1) 所在地名、2) 調査時の天候、3) 調査開始時刻、4) 代表河川幅・代表水深、5) EC(電気伝導率)・水温、6) 河床材料(砂・泥・石・コンクリート)である。
魚類採捕調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>各調査地点において、10mの流程を調査員1名がタモ網を用いて15分採捕した。採捕した個体は、種の同定と雌雄の判別、および標準体長の測定を行い、写真撮影後に同地点へ放流した。</li> <li>種の同定は「中坊徹次編(2013)日本産魚類検索(第三版)」に従った。</li> <li>同一種において採捕個体数が10個体を超えた場合、無作為抽出による10個体のみを標準体長を測定し、残りは個体数のみを計数した。</li> </ul>



ニホンウナギ



サクラマス(ヤマメ)



太平洋系降海型イトヨ



カンキョウカジカ

図1 調査地点と主な採捕魚種

## 3. 調査結果

表1 採捕魚種と採捕地

科名	和名	洋野	久慈	野田	普代	田野畑	岩泉	宮古	山田	大槌	金石	大船渡	陸前高田
ヤツメウナギ	スナヤツメ北方種	●											
ウナギ	ニホンウナギ										●		
コイ	ウグイ						●	●					
コイ	ギンブナ												●
コイ	ドジョウ	●		●				●				●	●
アユ	アユ							●				●	
サケ	アママス(エソイワナ)	●							●				
サケ	サクラマス(ヤマメ)					●	●	●					
トゲウオ	太平洋系降海型イトヨ									●			
トゲウオ	太平洋系陸封型イトヨ									●			
ボラ	ボラ									●			●
カジカ	カジカ(小卵型)	●		●				●					
カジカ	カンキョウカジカ	●		●	●		●	●					
ハゼ	ミミズハゼ		●										
ハゼ	マハゼ							●			●		●
ハゼ	ヌマチチブ												●
ハゼ	チチブ												●
ハゼ	シマヨシノボリ											●	●
ハゼ	オオヨシノボリ											●	●
ハゼ	スミウキゴリ	●						●	●	●	●	●	●
ハゼ	ウキゴリ							●	●				●
ハゼ	シマウキゴリ	●		●	●		●	●					
ハゼ	ピリンゴ									●	●		

※ 赤字は、環境省RL(2013)もしくは岩手県RDB(2014)の記載種

表2 採捕魚種の生活型による区分

純淡水魚	一次淡水魚	ギンブナ	ドジョウ	
	陸封・二次淡水魚	スナヤツメ北方種	太平洋系陸封型イトヨ	
通し回遊魚	溯河回遊魚	ウグイ	アママス(エソイワナ) サクラマス(ヤマメ) 太平洋系降海型イトヨ	
	降河回遊魚	ニホンウナギ		
	両側回遊魚	アユ	カジカ(小卵型)	カンキョウカジカ
周縁性淡水魚		ヌマチチブ	チチブ	
		スミウキゴリ	ウキゴリ	
		シマヨシノボリ	オオヨシノボリ	
		シマウキゴリ	ピリンゴ	
		ボラ	マハゼ	

- 採捕魚種は9科23種で、ハゼ科の魚種が多かった。
- 優占種はハゼ科のウキゴリで、次いでスミウキゴリが多かった。
- 希少種として、9種の生息を確認した。
- 生活型による区分において、通し回遊魚が多数を占め、純淡水魚は僅かであった。

## 4. 考察・今後の課題

三陸沿岸に生息する淡水魚類相の特徴の一つとして、純淡水魚の種数は少ないことが認められた。今後は、三陸沿岸において、これら純淡水魚の生息分布の把握と既往文献の調査を行ってデータを蓄積し、淡水魚類をテーマとするジオサイト選定の可能性を検討する。